

# 思春期におけるSexually Transmitted Disease(STD)に関する研究

白井将文 (東邦大学医学部泌尿器科)

最近若年者のSTDが問題になっているが、今回われわれは東邦大学付属病院、および関連病院の協力を得て思春期に実際にどの程度のSTDがみられるかを調査してみた。

調査に協力が得られた病院は東邦大学付属大森病院、同大橋病院、社会保険中央病院、社会保険川崎中央病院、社会保険桜ヶ丘病院、水戸赤十字病院である。これら6施設の泌尿器科外来を昭和57年から59年までの3年間に訪れた20歳以下の尿道炎患者は106例である。これは同期間に6施設を訪れた尿道炎患者総数1,411例の7.5%に相当する。

## <施設別および年次別尿道炎患者数>

		57年	58年	59年	合計	全:20↓
		東邦大	93	92	126	
大森	20↓	7	4	5	16	
東邦大	42	48	82	172	3.5%	
大橋	20↓	0	1	5		6
社保	128	127	72	327	5.8%	
中央	20↓	6	10(♀1)	3		19
社保	70	61	50	181	10.5%	
川崎中央	20↓	11	5	3		19
社保	17	19	13	49	6.1%	
桜ヶ丘	20↓	1	0	2		3
水戸日赤	112(♀2)	123	136	371	11.6%	
	20↓	19	14	15		43
合計	462	470	479	1,411	7.5%	
	20↓	39	34	33		106

全:尿道炎患者総数  
20↓:20才以下の尿道炎症例数

また尿道炎患者総数に対する20歳以下の症例の割合を年次別に比較すると大差はないが施設別に比べると、川崎中央と水戸日赤が1割以上を占めているのが目立つ。

男女比では105:1と圧倒的に男性が多かった。また年齢分布をみると16歳から20歳に分布

し、18歳以上が89.6%であった。

感染源は不明(カルテの不備、問診上性的接触を否定したものを不明とした)、素人(友人、妻、ゆきずりの女性など)と特殊浴場などの3種に分類してみると、不明44例(41.5%)、素人40例(37.7%)、特殊浴場など22例(20.8%)の順であった。

また起炎菌については今回は淋菌性と非淋菌性の2つに分類したが、淋菌性が57例(53.8%)とやや多く認められた。

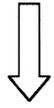
## <感染源別・起炎菌別症例数>

起炎菌 感染源	淋菌性	非淋菌性	合計 例
	不明	19	25
素人 (妻2人を含む)	26	14	40
特殊浴場・etc. (海外1人)	12	10	22
合計	57	49	106

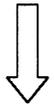
次に施設別、感染源別に症例数の比較をすると、新宿、川崎といった歓楽街のある地域では、水商売の人からの感染が多く認められた。また、特に目立ったのは水戸での素人からの感染の多いことである。その中でも妻からの感染2例、女友人から15例と特定のパートナーからの感染の多いことは注目すべき点である。

最後に潜伏期間であるが、淋菌性、非淋菌性ともに7日が一番多く、淋菌性では6~10日44.8%と従来からいわれていた3~5日よりやや延びる傾向を認めた。

以上、若年層のSTDについて述べたが、若年者では友人など身近な同年代のパートナーからの感染が多いにもかかわらず男性患者が圧倒的に多いという事実は、女性は無症状でしかも感染源となりうること、また再感染の危険性やパートナーから他の人への感染の可能性を意味し重大であり、パートナーを含めての治療の重要性や性病に対する正しい指導が必要である。



**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



最近若年者のSTDが問題になっているが、今回われわれは東邦大学附属病院、および関連病院の協力を得て思春期に実際にどの程度のSTDがみられるかを調査してみた。